

女子傍尿道平滑筋腫の1例

北野病院泌尿器科

小	川	修
吉	村	直 樹
西	村	一 男
中	川	隆

A CASE REPORT OF PARAURETHRAL
LEIOMYOMA IN A FEMALE

Osamu OGAWA, Naoki YOSHIMURA,
Kazuo NISHIMURA and Takashi NAKAGAWA

*From the Department of Urology, Kitano Hospital
(Chief: T. Nakagawa, M. D.)*

Paraurethral tumor in females is a relatively rare disease. Herein, a case of paraurethral leiomyoma is reported.

A 30-year-old woman consulted our hospital with complaints of a painless tumor and discomfort at the external genital parts.

Local examination revealed a thumb's head sized tumor with smooth surface at the anterior wall of the external urethral meatus. Histologically, this tumor contained spindle cells and many collagenous fibers, and was diagnosed as leiomyoma.

In Japan, there were 87 cases of female paraurethral benign tumor, which contained 47 cases of leiomyoma including this case.

Fifty-four percent of the chief complaints for all female paraurethral tumors were palpable external genital masses; and, palpable painless mass was the most common complaint. Also, the patients with tumors of the posterior or lateral wall complained about urination more frequently.

Key words: Paraurethral tumor, Leiomyoma

緒 言

女子尿道周囲に発生する非上皮性良性腫瘍は、比較的まれな疾患である。

われわれは、最近、女子尿道前壁に発生した平滑筋腫の1例を経験したので、これを報告するとともに、若干の文献的考察を加える。

症 例

患者：30歳，未婚女性
初診：1983年8月20日

主訴：外陰部腫瘍，外陰部不快感。

家族歴：乳癌（姉）

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：1983年8月19日，外陰部不快感を感じ，初めて外陰部腫瘍に気づいた。翌日，当院婦人科を受診し，外尿道口部腫瘍を指摘され，当科を受診した。

なお，排尿痛，血尿，排尿困難，尿線の乱れなどは，とくに訴えていなかった。

現症：身長 156 cm，体重 48.5 kg，全身リンパ節腫脹無く，そのほか，胸腹部に理学的異常所見を認めなかった。

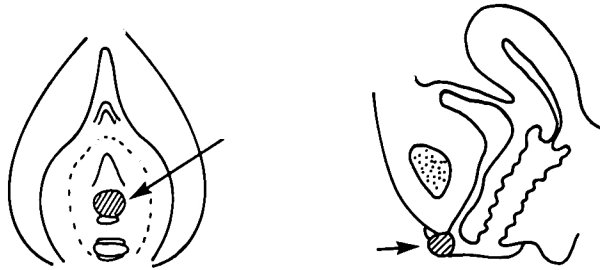


Fig. 1



Fig. 2



Fig. 3

局所所見：外尿道口部に 拇指頭大の 腫瘤を 認めた (Fig. 1).

腫瘤は充実性で弾性に富み、比較的可動性も良く、触診上、周囲への浸潤は認められなかった。

また、表面は平滑で、出血、ビランは認められず、ネラトンカテーテルは、腫瘤下縁に沿って膀胱内に挿入可能であった。

一般検査成績：とくに異常を認めない。

尿細胞診：Pap. class 2

排泄性腎盂造影：両腎の排泄機能は良好で上部尿路の形態に異常を認めなかった。

膀胱鏡所見：膀胱内への挿入は容易で、膀胱内にもともに異常を認めなかった。

手術時所見、術後経過

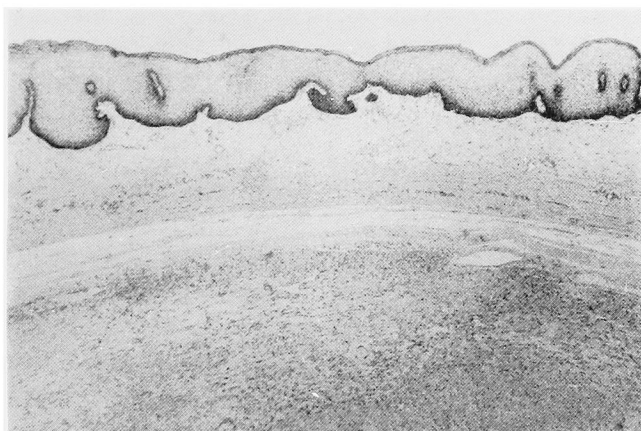


Fig. 4

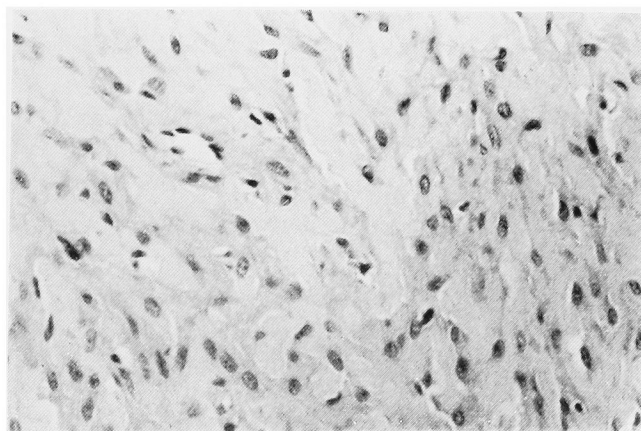


Fig. 5

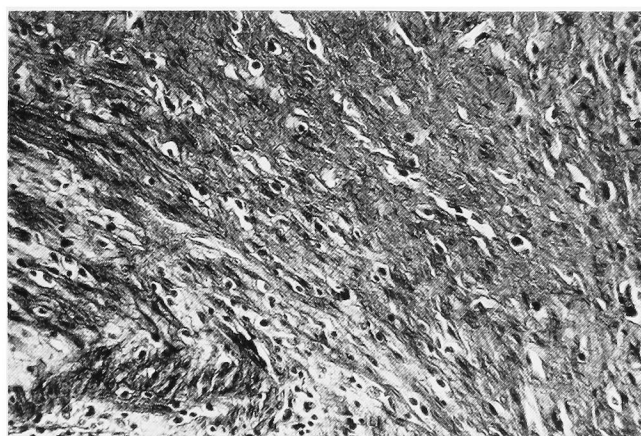


Fig. 6

以上の所見, および検査結果より, 女子傍尿道腫瘍と診断. 手術は腰椎麻酔下, 碎石位にて, 腫瘍摘出術を施行し, balloon catheter を留置した. 腫瘍は, 半有茎性で, 基部は外尿道口の前壁右側より存在していた.

術後, 4日目, balloon catheter を抜去したが, 創治癒, 排尿状態とも良好で, 術後7日目に退院した. 現在10カ月を経過するが再発は認められていない.

摘出標本

摘出標本は, 2 cm×1 cm×1 cm の表面平滑な腫瘍で, 正常と思われる尿道粘膜におおわれていた (Fig. 2).

断面は, 均一な黄白色調の実質からなり, 出血, 壊死などは認められなかった (Fig. 3).

病理組織学的検査:

尿道の扁平上皮には著変を認めないが, やや深部に, 比較的境界明瞭な腫瘤形成を認める (Fig. 4).

腫瘍の構成細胞は, 主として紡錘型の細胞で, その増生の間に, 比較的 homogenous に染まる束状の線維の走行が認められる (Fig. 5).

Azan 染色で, 青く染まる collagenous fiber が豊

富にみられ, また, 胞体の赤く染まる平滑筋由来の細胞の増生が主体にみられる (Fig. 6).

以上により, 線維成分を多く含むが, 平滑筋増生を主とする腫瘍で, 悪性所見は無く, 平滑筋腫と考えられた.

考 察

女子尿道は, 尿道腔中隔部を介して, 腔前壁と密接な関係にあり, ここより発生する非上皮性腫瘍は, その原発部位の判定が困難である. 腫瘍の発育様式, 腫瘍と尿道の attachment の有無により, 尿道腫瘍と傍尿道腫瘍とを分類する考え¹⁾もあるが, 実際には, 判定が困難なものが多く, ここでは, 武本らの提唱²⁾に従い, 傍尿道腫瘍として, 一括した.

女子傍尿道良性腫瘍は, 文献上³⁻⁶⁾, 自験例を含め87例の報告があり, 平滑筋腫としては, 47例目である (Table 1).

女子傍尿道良性腫瘍の組織学的頻度は, 平滑筋腫が半数以上を占め, ついで, 線維筋腫, 線維腫, 血管腫の順である (Table 2).

線維筋腫と平滑筋腫とを明確に区別することはむづかしく, 平滑筋腫として一括されることもあり⁷⁾, また,

Table 1. 女子傍尿道平滑筋腫本邦報告例 (1979年林正らの集計以降)

症例	報告者	年齢	主訴	発生部位	大きさ (cm)	形状	文献
35	瀧原	34	外陰部腫瘍	後壁	4.5×3.5×3.0	広基性, 楕円形	臨泌33.1017~1019 1979
36	松田	32	外陰部腫瘍	後壁	6.0×5.5×4.2	—	日泌会誌71.430~431 1980
37	吉田	29	外陰部腫瘍	尿道腔中隔部	4.5×2.5×2.0	球形	西日泌尿42.573~577 1980
38	濃沼	32	外陰部腫瘍	前壁	5.5×4.5×3.0	楕円形	秋田県医師会誌32.129~132 1980
39	吉岡	19	排尿時痛, 頻尿, 残尿感	前壁	2.0×2.2	—	西日泌尿42.815~818 1980
40	森山	53	性器出血	後壁	3.7×2.3	楕円形	泌尿紀要26.1281~1289 1980
41	山本	60	外尿道口部腫瘍	—	3.1×2.2×1.0	—	日泌会誌72.617 1981
42	青木	63	排尿時違和感	左側壁	2×2×1.4	類楕円形	臨泌36.883~886 1981
43	瀧原	43	外陰部違和感	後壁	2.1×1.0×1.7	楕円形	西日泌尿43.993~996 1981
44	能登	44	外陰部腫瘍	後壁	2.5×2.0×1.5	楕円形	臨泌36.883~886 1982
45	中村	33	外陰部腫瘍	右側壁	3.0×0.8×0.8	—	日泌会誌74.1078 1983
46	宮前	57	出血	後壁	5.5×4.5×2.5	—	日泌会誌74.1705 1983
47	自験例	30	外陰部腫瘍 外陰部不快感	前壁	2×1×1	楕円形, 半有茎性	

Table 2. 女子傍尿道良性腫瘍年齢分布

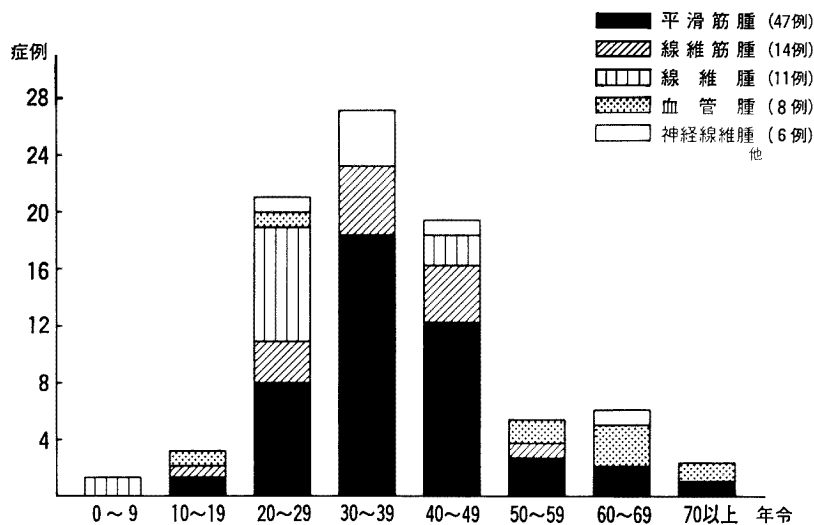


Table 3. 女子傍尿道良性腫瘍発生部位と主訴

	前壁 (34例)	側壁 (8例)	後壁 (25例)	尿道腔中隔 (9例)	
腫瘍触知	22	4	11	4	41 (54%)
排尿異常	9	3	5	2	19 (25%)
血尿, 出血	9	1	8	1	19 (25%)
排尿時痛	1	2	4	0	7 (9%)
外陰部不快感	1	1	1	1	4 (5%)

HE 染色のみでは、筋組織の有無を判定しがたく¹⁾、線維腫の中にも平滑筋腫の症例が含まれている可能性もあり、平滑筋腫の症例はさらに多いと思われる。

年齢分布は、性成熟期の女性に多く、20, 30代の発生は、全体の半数以上を占める。このことより、内分泌学的因子がその発生に関与していることが考えられる。

Shield ら⁸⁾は、妊娠に合併した平滑筋腫の1例を報告し、estrogen が子宮筋腫の発生に影響をおよぼすことから、estrogen が尿道の平滑筋腫の発生にも関与することを示唆している。しかし、Wani ら⁹⁾は、出産後、腫瘍の消退が見られなかったとして、これに否定的である。また、浦田ら¹⁰⁾は、50歳未満では筋腫型、50歳以上では血管腫型をとりやすいと報告している。

傍尿道良性腫瘍全体としての主訴は、腫瘍触知がもっとも多い (Table 3)。

発生部位と主訴との間に、関係は無いとする報告⁶⁾、

¹¹⁾も多く、また、前壁発生例に、排尿障害が多いとする報告¹²⁾もあるが、今回の集計では、後壁、側壁発生例は、前壁発生例に比し、排尿に関する訴えが多いように思われた。また、林正ら⁹⁾の報告のように、内尿道口付近の腫瘍は、排尿障害をおこしやすいと思われる。

結 語

30歳未婚女性にみられた傍尿道平滑筋腫の1例を報告するとともに、87例の本邦女子傍尿道良性腫瘍について、若干の文献的考察をおこなった。

なお、本論文の要旨は、第106回泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) 吉岡俊昭・並木幹夫・板谷宏杉：女子傍尿道平滑筋腫に尿道瘤の合併した1例。西日泌尿 42: 815~818, 1980
- 2) 武本征人・高羽 津：女子傍尿道腫瘍の1例。泌尿紀要 18: 847~850, 1972
- 3) 林正健二・松田公志：女子傍尿道平滑筋腫の1例。泌尿紀要 25: 495~498, 1979
- 4) 森山正敏・北島通登・井田時雄：女子傍尿道腫瘍の2例。泌尿紀要 26: 1281~1289, 1980
- 5) 橋本雅善・大園誠一郎・馬場谷勝廣・脇岡 隆・生間昇一郎・平尾佳彦・伊集院眞澄・岡島英五郎：女子傍尿道非上皮性腫瘍の2例。奈医誌 33: 355~363, 1982

- 6) 能登宏光・坂本文和・佐藤貞幹・西沢 理・山中雅夫：女子傍尿道平滑筋腫の1例. 臨泌 **36** : 883~886, 1982
- 7) 森田一喜郎：膀胱平滑筋腫. 西日泌尿 **32** : 173~177, 1970
- 8) Shield DE and Weiss RM : Leiomyoma of the female urethra. J Urol **109** 430~431, 1973
- 9) Wani NA, Bhan BL, Guru AA and Garyali RK : Leiomyoma of the female urethra. A case report. J Urol **116**: 120~121, 1976
- 10) 浦田英男・加藤広海・山崎義久・多田 茂：女子傍尿道腫瘍の1例. 泌尿紀要 **25** : 1061~1068, 1979
- 11) 吉田光良・奥山明彦・水谷修太郎：女子傍尿道平滑筋腫の1例. 西日泌尿 **42** : 573~575, 1980
- 12) 三好 進・郡 健二郎・永原 篤：女子傍尿道腫瘍の2例. 西日泌尿 **38** : 741~746, 1976

(1984年5月31日受付)